② 確かな学力の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策		成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	基礎学力の向上	・「授業がわかる」という児童を80%以上にする。 ・「分からないから教えて」と言える児童を60%以上にする。 ・国や県の学力状況調査や標準学力調査で、全学年、全項目の武雄市の平均正答率を上回ることを目指す。 ・図書貸出冊数を１００００冊以上にする。	・指導法の開発・改善に努め個に応じた指導を実施する。 ・学び合いの様子を振り返りで自己評価させる。また家庭の啓発を行い、家庭の協力を得る。 ・朝の計算タイムの充実や「すくすく寺子屋」で基礎学力の定着を図る。 ・図書環境の充実を図る。	B	・今年度の学校評価では，９８%の児童が「毎日の授業はだいたいわかる」と答えている。 ・１時間１時間のめあてにそって振り返りを書かせたことによって，児童自身が授業で学んだことを確認することができ，次時へとつなげることができた。 ・朝の計算タイムやすくすくテストの継続実施により，基礎学力の定着に努めた。また，取り組んだ問題や宿題はその日のうちに書き直しをさせ，学力の定着に努めた。 ・毎週水曜日の朝の時間に，「なかよしタブレット」の時間を設定し，アプリを活用して，計算問題の習熟や脳トレに取り組んだ。 ・図書の利用については，全校的に取り組み，貸し出し数は１万冊数を超えた。 ・個別指導に取り組んできたが，十分な時間をとることができなかった。	・個に応じた指導やＩＣＴの利活用などの充実により、児童アンケートでは、授業について「よく分かる」「だいたい分かる」を合わせると９８%になる。また、小テストの実施、タブレットを使っての「脳トレ」の学習や個別指導等の取組により着実に成果が表れている。そこで、これらの取組を今後とも徹底していく必要がある。 ・学習状況調査での結果、「活用力」向上に向けた指導法の研究が必要である。 ・ＩＣＴの利活用等、指導法の工夫により「わかる授業」が進んできた。「電子黒板を使った学習は分かりやすいですか」の問いで、児童の９８%がよく分かる、だいたい分かると回答している。指導者のますますの研鑽が求められるところである。 ・自分の考えをまとめ、説明する力もついてきているので、取組を徹底していきたい。

③ 教職員の資質や指導力の向上

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	授業研究及び職員研修の充実	・一人1回の研究授業を行う。その際講師招聘を３回以上行い、指導力向上についての研修を深める。 ・授業の振り返りを行い、それ以後の授業に生かす。	・研究授業を年間計画に位置づけ，担任以外も全員で一人１回以上、計画的に実施する。	A	・研究授業を通して，教材研究や教材作りができ，指導力向上に活かすことができた。自主的に事前に模擬授業を行ったり，指導案検討会を行ったり研修を積み重ねることで指導力向上につながった。 ・研究授業には，ＩＣＴ機器の利用場面を多く設けることで、機器利用のスキルも向上してきた。 ・校内研究は，「言語活動の充実」や「学び合い」を中心とした授業の在り方について，ＩＣＴの利活用を図りながら取り組むことができた。特別支援学級担任は、生活単元で、養護教諭は学級活動で研究授業を行った。また，教務主任は理科で研究授業を行った。	・研究授業は計画に従って一人全員が１回以上実施する。 ・スマイル学習（武雄式反転授業）の公開授業日を年２回実施し、市内外からの来校者から評価をいただいた。２年目は更に高みを目指していきたい。 ・教職員アンケートの「研究授業や職員研修の充実が図られていますか」で、「達成できている」「概ね達成できている」は１００%だった。引き続きこの状態を維持していきたい。
教育活動	●ICT利活用教育の推進	授業研究及び職員研修の充実	・研究授業にあたっては、ICTの利活用やタブレットの効果的な使用を図る。 ・ＩＣＴの向上を図るための研修を2回以上実施する。	・情報教育推進リーダーやICT推進員を中心にＩＣＴに関する研修を２回以上実施し、職員の意欲やリテラシーを高める。	A	・授業研究では，電子黒板やタブレットを活用した授業が行われた。内容は，主に，教材文や動画の提示であった。 ・日々の授業の中でも，全職員が随時電子黒板を利用したものが行われており，職員のICTに対する意識・技能・使用頻度は高いと思われる。 ・職員を対象にした研修は，スマイル学習や校内のICT機器の研修を随時、断続研修として行ってきている。 ・今後は，多様な校内のICT機器を効果的に活用して学力向上を図っていくのかを検討していく必要があると考える	・教職員アンケートの「ＩＣＴを活用した授業改善ができ、児童の学力向上につながっていますか」の問いで、「達成できている」「概ね達成できている」が１００%だった。 また、児童アンケートの「電子黒板を使った学習は分かりやすいですか」の問いで、「よく分かる」「だいたい分かる」が９８%である。これからも継続的な取組が求められるところである。 ・教職員全員がタブレットやテレビ型電子黒板等のＩＣＴの利活用を行うことでＩＣＴ利活用の研修の中身がより深まった。指導者の更なる研鑽に力を入れる必要がある。 ・定期的な研修会等を通して、積極的に活用しようという教職員の姿勢を持続させたい。 ・研究授業で全クラス活用する。

④ たくましい身体

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	体力の向上及び望ましい食生活習慣づくり	・新体力テスト等で児童の実態を把握し、授業や業間運動等で適切な指導を行いながら前年度よりも体力の向上を図る。 ・食育指導を計画的に実施し、マナーの向上に努める。 ・性教育を年間通して適宜児童の実態に応じた児童を実施する。	・新体力テストの結果を児童に配ることで自身の体力を知らせ年間のめあてをもたせて主体的な運動生活を送らせる。 ・学級担任及び運動委員会を中心に、休み時間に外で元気に遊ぶ時間を設定する。 ・水泳・縄跳び、持久走等を年間通して計画的に指導する。 ・「お箸がんばろう」週間を設け、箸の持ち方の意識づけなどを行う。 ・校医の先生と連絡を密にし、毎月第３木曜日の健康相談日に適切な指導助言をいただく。 ・各学級に性教育の年間教育カリキュラムの配布を行うと同時に、担任と連携した指導を行う。	B	・新体力テストの結果を児童に配布し、自身の体力を知らせることはできた。しかし、自身の体力を意識した活動を実践する時間を設けることについては、課題が残る。 ・休み時間に外で元気に遊ぶ児童が増えた。運動委員会が実施する体育集会についても、昨年度より参加人数が増加した。 ・児童については、校医の先生との連絡、報告、相談は必要時にでき、医療機関につなぐことのできたケースもある。 ・熱中症予防、感染症予防についての日常的な指導はできた。 ・性に関する指導の年間教育カリキュラムは所定の場所に配置し、いつでも見ることができるようにしている。実施状況等の確認は、今後、行っていく。 ・毎月の給食目標を学級に掲示したり、放送したりして、食への関心やマナーアップについて指導ができた。	・「運動を進んでしていますか」の問いに、９１パーセントの児童が、「している」、「だいたいしている」と回答しているが、更に実施率を伸ばしていきたい。 ・新体力テストの結果から、しっかり体力をつけていかなければならない。 ・「児童の健やかな体をつくり、望ましい食習慣の定着を図るために、昼休みの外遊びの確保、体育的行事や食育指導を計画的に行っているか」の問いに、１００%の職員が、達成できている、だいたい達成できていると回答している。これも更に伸ばしていきたい。 ・給食返却時の挨拶がよくできている。全校的に徹底を図っていきたい。 ・好き嫌いせずに食べている児童は、９３%が食べている、だいたい食べているである。根気よく指導していきたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○田んぼの学校を中心とした体験活動	体験活動の充実	・稲作体験の充実を図る。 ・保護者の参加率を６割以上にする。	・１年間の体験活動を見通し、事前指導を行ってから活動に臨ませる。また、事後の振り返りをさせ、その後に生かす。 ・育友会の施設部の会員さんとの連携をとり、より円滑な運営ができるように心がける。 ・保護者及び関係団体に年間計画を配布したり、情報を早目にに伝えることで、保護者及び関係者の参加を促す。	A	・1年間の活動を見通し、事前指導を行ってから活動に臨ませることができた。また、事後の振り返りをさせ、その後に生かすよう努めることができた。 ・育友会の施設部員さんとの連携をとり、円滑な運営ができるように努めることができた。 ・保護者及び地域の関係団体に年間計画を配布し、情報を早めに伝えることで保護者及び関係者の参加を促してきた。保護者さんにも毎回の活動で、よく協力していただくことができた。 ・野菜販売の事前準備では、営農学級の方に業物野菜を洗っていただいたので、児童にできる範囲での販売活動にできないか計画を見直す必要がある。	・田んぼの学校では、地域の関係団体、保護者の協力で、今年度も充実した活動が展開された。この連携、協力の関係を今後も続けていきたい。 ・区長会、ＪＡ女性部、ＪＡ、地域ボランティアグループ、ちゃりんこクラブといった関係団体との連携・協力ができている。関係の団体とは、年度初めに計画した内容の通りに協力をお願いしていく。